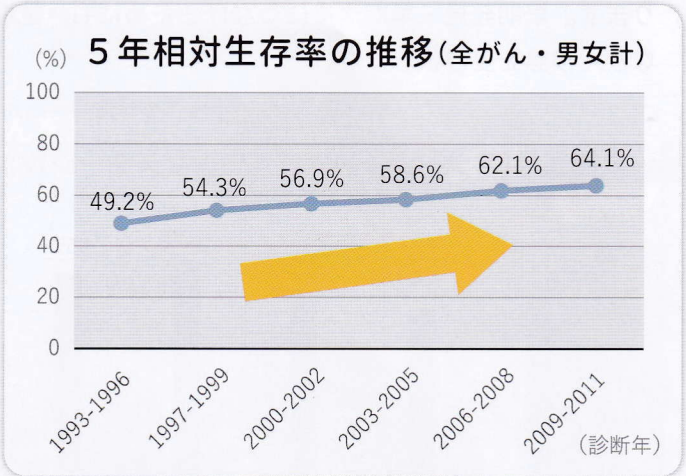
# 現状と今後

## がんと共に生きる時代へ

日本では、**２人に１人が一生のうちに一度はがんになり、３人に１人ががんで亡くなる**、今やがんは国民病と言われています。岡山市では年間約5,100人ががんになり、亡くなる原因の第１位にもなっています。

人口構成比率の高い団塊世代や団塊ジュニア世代の加齢に伴い、今後５年間で、がんと診断され生活する高齢者や働き盛りの世代が増えていく傾向にあります。右図のとおり、がんの５年生存率は、医療の進歩とともに年々上昇しており、「がん＝死」と捉えられていた時代から、**「がんと共に生きる時代」**へと変化しています。




国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」
地域がん登録における5年相対生存率より作成

また、最近では抗がん剤治療、放射線治療等の進歩により、外来通院で治療を行うことが増えています。働き盛りの世代では、外来通院で治療をしながら仕事を継続する人も多くなっています。がんになっても、仕事、学業、出産・育児など、安心して自分らしく過ごしていける環境を実現するためには、患者本人だけでなく、主治医や職場、家族・友人などまわりの理解と協力が不可欠です。

### 今後の岡山市の目指す姿

**すべての人ががんについて正しい知識を持ち、がんを理解し、**
**がんになっても互いに支え合い、**
**安心して暮らすことのできる地域社会の実現**

これまでの10年間の成果と現状を踏まえ、岡山市では今後５年のがん対策の方向性として、これまで取り組んできたがん対策の４つの焦点の中でも特に「早期発見の推進」と「がんとの共生」に重点を置いて取り組みます。また、世代ごとに進めるべき対策も異なることから、３つの世代（AYA世代（※）、壮年期、高齢期）に応じたがん対策を進めます。

※AYA世代はAdolescent and Young Adult(思春期と若年成人)の略。15歳～39歳のこと。

| AYA 世代 | 壮年期 | 高齢期 |
|---|---|---|
| 重点 早期発見の推進 | | 重点 がんとの共生 |
| がんの予防 | | 緩和ケア・在宅医療の推進 |

働き盛りの世代は特に定期的ながん検診により、がんを早期に発見、早期に治療することで、その後も続く人生のQOL の維持・向上を目指すことができます。

生涯に２人に１人ががんになる時代であり、自分自身のこととして、身近な人のこととして、がんを捉え理解していくことが求められます。